

「学校経営品質」を考える

－中学校長に期待すること－

株式会社開倫塾
代表取締役社長 林明夫

・読みやすいように、Q and Aの形で書かせて頂きます。

Q：「学校経営品質」とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)学校経営で卓越した業績を目指すものです。日本では、三重県や岩手県などで、知事の強力なリーダーシップのもと、取り組みが行われています。

(www.pref.mie.jp/kyokai/hp/keihin/frame)

Q：「学校経営品質」の基本理念は何ですか。

A：4つあります。

(1)第1は「顧客本位」です。学校教育の顧客つまり対象は、つきつめて考えれば ①「児童・生徒」、②「保護者」、③「地域社会の人々」であると私は考えます。各々の「顧客」の「成功の実現」に向け、どのような形で、何を目標にして貢献できるかを、「顧客」の立場で考え、実行に移すことが求められます。

(2)第2は「独自能力」です。一つ一つの学校が、地域や学校の伝統やよさを踏まえつつ、時代の変化に対応した「独自能力」とは何かを考え、具体的な形で実行に移すことが求められます。

(3)第3は「教職員重視」です。先生や学校スタッフ全員の能力を最大に強化した上で、権限を大幅に委譲することで雇用の維持を目指します。empowerment(エンパワーメント)という英語には「能力強化」と「権限委譲」の表裏一体をなす2つの意味があるようですが、教職員重視を最も的確に表していると考えます。

(4)第4は「社会との調和」です。学校内での法令違反や犯罪撲滅を意味する「法令遵守」と地域社会の一員としての学校活動を意味する「社会貢献活動の推進」が内容です。

Q：なぜ、この時期に「学校経営品質」なのですか。

A：行財政改革や地方分権が教育分野でも大幅に進み、また、教育基本法が大幅に改正された今日、栃木県や各市町村の教育委員会、各中学校の裁量範囲が大幅に拡大されました。各々の責任者が、衆知を集め、最終的には自らが自らの責任で意思決定をし、自らの責任で実行に移し、納税者の評価を受ける時代となりました。上から言われるままに仕事をし、報告をすれば足りる時代は終わったと言えます。では、どうしたらよいかを考えたときに、最も役に立つのが「学校経営品質」であると私は確信いたします。是非、三重県のホームページなどで御研究下さい。

Q：ところで、林さんは、PISAの学力到達度調査で世界一になったフィンランドに毎年視察に行ったり、東京の経済同友会の幹事として都内の中学校で月何回か出張授業を行ったり、また、宇都宮市教育委員会の学校制度に関する懇談会委員、栃木県社会教育委員、宇都宮大学大学院工学研究科非常勤講師などをされているようですが、栃木県の中学校長の先生方に期待することや提言はありますか。

A：あります。山ほどある中から、以下に例を挙げます。

(1) 学力不足は、学校の先生だけの力では解決が難しい。勇気を持って、必要な教科だけでも「教育ボランティア」を教室に入れるようなしくみづくりを提案いたします。

(2) 学力は本格的な読書量に大きく影響されると考えます。家庭に眠っている優良図書を「ブックオフ」並みの価格で買い取ることにより、学校図書館を充実させ、児童・生徒の読書量を飛躍的に増加させること。「学校図書館の復活」を提言させていただきます。

同時に、昨日の新聞を大人が児童・生徒にプレゼントすることで、新聞購入費用負担ゼロの「NIE、新聞を教育へ」活動を提案いたします。

(3) 「教育成果」は、「本人の自覚」と「先生の力量」が大きく影響すると考えます。「本人の自覚」を促すために、地域の人々を総合学習や道德の時間にお招きすることは有用と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「教育の質」を考えるときに大切なのは、①「カリキュラムの質」、②「先生の質」、③「マネジメントの質」と考えます。栃木県の各中学校が、校長先生の強力なリーダーシップに基づいた「学校経営品質」の取り組みを通して、「卓越した業績」を目指されることを御期待申し上げます。

－ 2007年1月1日記－